

平成 29 年度

名寄市議会 議会報告会実施報告

名寄市議会の活動状況を市民の皆さんにお伝えし、市民や市が抱える課題について意見を交換するため、今年も4月17、18日の2日間、市内6カ所で議会報告会を実施しました。議会基本条例に基づく議会報告会実施要綱では、「第2回定例会終了後、概ね2か月以内に、議員を4班に分けて行う」としておりましたが、議会改革議論の中で「より多くの市民の皆さんと意見を交換すべき」という方向性が確認されたことにより、今年度については『実施は4月と10月の年2回』『班構成は2班』とし、取り組むこととしました。

6会場で実施した報告会には、79人の市民の方々に参加していただき、寄せられた質問、意見、要望は建設的なものを中心に46項目に達しました。

改めまして、ご参加をいただきました市民の皆さんに感謝とお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

皆さんからお寄せいただいた質問や意見などについては、5月10日に正副議長及び両班長（議会運営委員会正副委員長）会議で内容を精査した結果、7項目について市長の見解を求めるべきと判断し、同月15日午前10時に、正副議長、議会運営委員長から加藤剛士市長に文書で見解を求めました。

今議会任期も折り返し点を迎えました。新議会発足後に設置した議会改革調査特別委員会では現在、「市民の目線を基本に、スピード感を持って議会改革を進める」を合言葉とするとともに、議会一体となって「市民から信頼される議会づくり」に邁進しています。市民の皆さんには、今後も私ども市議会の動向にご注視いただきますようお願い申し上げますとともに、10月に開催予定の意見交換を含めた報告会にご参加いただき、ご意見等をお寄せいただければ幸いです。



《議会報告会 実施概要及び主な質疑》

【概要】

今回の報告会は、2班体制とし、1班3会場計6会場で開催いたしました。

開催にあたり、議員自らが資料を作成するとともに、より多くの市民の皆さんにご参加いただくため、市内報道機関への記事掲載依頼に始まり、議会だよりや市議会ホームページに日程を掲載し、さらには全議員が1人20枚の案内チラシを市民の皆さんに配布して参加を呼びかけました。議会日程と報告会開催までの期間が短かったこともあり、各町内会への案内が遅れたことに対し、厳しいご指摘もいただきました。

実施に際しての会場設営、受付、記録、司会進行などは、例年どおり議員それぞれが行い、意見交換の題材とすべく名寄市総合計画（第2次）のダイジェスト版などを配布しました。

議会側からの説明は、昨年の報告会以降に開催された定例会や臨時会の審議状況、各常任委員会・特別委員会の行政視察、議会改革調査特別委員会の審議進捗状況、会派構成の変更などについて説明しました。例年報告していた政務活動費については、収支報告が確定していないため、今回の報告には盛り込みませんでした。

意見交換は、特定のテーマを設けずに行いましたが、市民生活などに関わる意見のほか報告会に市民参加が少ないことへの対応、議会での議員質問、執行者に対する対応の甘さなど、議会に対する意見も例年に比べ多くいただき、改めて改革の必要性を認識させられました。

いただいた質問、意見、要望の中から市長の見解を求めるべきと判断した7項目については、5月10日に申し入れし、同30日に回答をいただくことになっています。

なお、6会場で出された質問等と市長からの回答内容については、議会だよりや市議会ホームページなどで市民の皆さんにお知らせします。



【班編成】

《A班》

班長	奥村英俊	(議会運営委員会副委員長・経済建設常任委員会委員長)
	黒井徹	(議長)
	東千春	(総務文教常任委員会委員長)
	大石健二	(市民福祉常任委員会副委員長)
	山崎真由美	(総務文教常任委員会委員)
	野田三樹也	(総務文教常任委員会委員)
	塩田昌彦	(市民福祉常任委員会委員・議会報特別委員会副委員長)
	浜田康子	(市民福祉常任委員会委員)
	佐久間誠	(経済建設常任委員会委員)

担当地区…名寄東小学校、ノースタウンふれあい会館、ふうれん地域交流センター

《B班》

班長	山田典幸	(議会運営委員会委員長・総務文教常任委員会委員)
	佐藤靖	(副議長・総務文教常任委員会委員)
	熊谷吉正	(市民福祉常任委員会委員長)
	高野美枝子	(総務文教常任委員会副委員長)
	川口京二	(経済建設常任委員会副委員長)
	佐々木寿	(市民福祉常任委員会委員・経済建設常任委員会委員)
	高橋伸典	(市民福祉常任委員会委員)
	川村幸栄	(経済建設常任委員会委員・議会報特別委員会委員長)
	東川孝義	(経済建設常任委員会委員)

担当地区…名寄市総合福祉センター、智恵文多目的研修センター、名寄市民文化センター

【意見交換の主な内容】

各会場における意見交換の主な内容は次のとおり。

A班 名寄東小学校会場

参加 16 人

（各常任委員会の行政視察について）

問 除排雪について、経済建設常任委員会で行政視察を行っているが、視察先の自治体と名寄市の施策等対応の違いは。視察結果をどのように名寄市に反映しているのか。

答 経済建設常任委員会では、除排雪について6自治体を視察した。例えば、深川市では除排雪体制は名寄市とは大きく変わらないが、市直営の除排雪部門を設けている。直営部門により日常的な対応ができる。岩見沢市では建設水道部等の除排雪担当部署だけでなく、全庁体制で除排雪対策本部を設置している。富良野市では、30年前から間口除雪を実施している。名寄市とは降雪量、雪質などに違いもあるが、それぞれの自治体で進められている施策を参考にし、名寄市にあった除排雪方法を議論研究し、まとめていきたい。

問 経済建設常任委員会で視察した富良野市の除雪ヘルパー事業について説明願いたい。

答 富良野市の除雪ヘルパー事業は、病弱な一人暮らしの高齢者などを対象に、積雪 15 cm 以上の場合、除雪ヘルパーを派遣し、玄関から道路までの除雪をする。1 シーズン 2,000 円で利用することができる。名寄市でも高齢者の除雪支援を行っているが、収入要件で対象とならない場合がある。

（大学図書館と市立図書館について）

問 名寄市立大学の新図書館が開設されたが、行政としても議会としても市立図書館が「建設ありき」で進んでいるように感じるが、人口 28,000 人の名寄市に2つの図書館が必要なのか。大学図書館建設の際に、学生と市民が共同で利用することも考えられていたと思うが、議会として検討したのか。

答 今までの名寄市立大学の図書館は2カ所に分かれており、4学科連携の考えのもとでは合理的ではなかった。大学の図書館という位置づけであるが、市民も利用することができる。市立図書館は老朽化が進んでおり、本の貸し出しだけを目的とした古いシステムである。総務文教常任委員会では図書館が市民生活にどのような関わりを持っていけるのか、市民に何を還元できるのか、図書館の複合化も含め、老朽化した市立図書館の将来をどのようにするか調査研究をしている。

（議会の質問について）

問 議会での議員の質問は市民も関心がある。市立病院や大学など大きな問題は質問として取り上げられるが、公営住宅の問題など、小さな問題は取り上げられていないのではないのか。議員は現場に足を運んで市民の声を聞き、このような問題にも目を向けてほしい。

答 公営住宅についての議会での質問は、空家が多い、収入増による家賃の対応についてなどの質問は出ている。大きな問題、小さな問題ということではなく、それぞれの議員が市民の声を聞き、質問をし、所管部署等に確認して調査研究をしている。

(体育施設の使用状況について)

問 名寄市の学校開放等体育施設の使用状況について、現状は各団体との競合などにより、希望の日に使用できない。閉校した豊西小学校の体育館や公設卸売市場跡地などを開放することは検討できないか。

答 豊西小学校は耐震性の問題があり、閉校としたこともあるので跡地利用については決まっていない。耐震性を考慮して使用するとした場合は、修繕等にどのくらいの費用が必要かもわかっていないと聞いている。廃校等の空いた施設の再利用等についても調査研究が必要との意見もある。議会として行政側には意見があったと伝えたい。

(道路整備等の要望について)

問 旧国道東5条通り南2丁目から国道にかけて、簡易舗装で穴だらけである。改修をお願いしたい。南2丁目の通学路について、冬の間は道路の南側が通学路になるが、バス停が北側にあり危険である。通学路を北側に変更してほしい。一部住民の承諾が得られず、南側が通学路となっている。新しい北斗団地について、車庫が使えず、家庭菜園もできないと聞いた。高齢者は家庭菜園で隣近所とのコミュニケーションをとっている。高齢者の生きがいを取り上げないでほしい。

答 具体的な要望と受け止めるが、道路の舗装、団地の空き地活用等は町内会でまとめ要望をしてもらおうとよいと思う。意見については聞き置く。

(パークゴルフ場の整備について)

問 名寄市内のパークゴルフ場はパークゴルフがやりにくいと評判が悪い。17線のパークゴルフ場は芝が荒れている。グリーン周りの整備が必要。健康の森パークゴルフ場はコース自体がやりにくい。

答 芝等の管理については、行政側に見解を求めることになるが、コース自体については難しいと考える。

(除雪について)

問 除雪による器物破損は除雪委託業者の対応と聞くが、器物破損の恐れのため作業が雑になることも考えられる。破損する恐れのあるような場所はあらかじめ市でも調査が必要ではないか。信号機付近の除雪の仕方が、信号機で一度停まることにより、発進の際に雪が残り道幅が狭くなる。業者への指導が必要と感じている。除雪についての対応を道路センターに連絡したら、現場の確認もせずに業者へ連絡しろと言われたが、そのような対応でよいのか。

答 除雪委託をしているが、委託契約しているのは市であるので確認する必要がある。経済建設常任委員会では除排雪についての調査研究のまとめをしており、来シーズンに向けて、しっかり話をしていきたい。

(道路整備について)

問 徳田 17 線道路が整備され、大型車の利用など利便性が高まったようだが、徳田 18 線道路についても改修の予算が措置されているようだ。行政の優先順位、緊急性について疑問を持つ。

答 徳田 18 線道路は未整備の部分の道幅が狭く大型車の交差についてなど以前から意見があった。整備の順番などは明確に分からないが、徳田 18 線道路にはそのような経過があると聞いている。

(市職員の地元採用の検討について)

問 名寄地方では高校を卒業して地元に残る生徒の割合は 1 割以内と聞いている。就職先がないことも原因と思うが、市職員の地元採用は難しいのか。

答 地元の子どもたちが、名寄の高校を卒業し、大学に入学し、地元就職してほしいと思う。夢があって名寄を離れる場合もあると思う。思いについては理解するが、就職の約束は難しい事と思う。

A 班 ノースタウンふれあい会館会場 参加 13 人

(議会での議員の質問について)

問 本会議等のインターネット中継をよく見ている。執行者側の答弁に対しての議員の掘り下げ不足が目についたことがあった。現場を見て調査し、もっと詳しく質問してほしい。

答 質問をしている議員がどの程度の認識を持って質問したのかはわかりかねるが、質問をするのであればしっかりと状況を調査し、実りあるものにしたほうが良い。議会として受け止め、今後気をつけたい。

(除排雪対策「レンタル&ゴー事業」について)

問 重機の貸し出しで、排雪ダンプは 1 台ということだが、排雪に時間がかかって効率的ではない。重機オペレーターの資格や事故の問題など町内会として使いづらい事業となっていないか。

答 「レンタル&ゴー事業」について、自主的に道路排雪を行う町内会に対し重機（タイヤショベル・排雪ダンプ）を無償で貸出する事業。平成 29 年度はモデル事業として 3 町内会を公募により選定し、1 町内会に対し 1 シーズン 3 回までの貸し出しを行う予定。具体的な要綱の設置はこれからだが、町内会からの意見も聞き、熟度を高め、長く続けられる事業としてほしい。経済建設常任委員会でも取り上げていきたい。

(道路除雪について)

問 道路除雪はきれいに舗装面が見えるくらいまで削っているが、路面の凍結などにより春先には道路が凸凹になっている。凍上したアスファルトが削られ、雪解けにはアスファルトの欠片が散乱している。もう少し雪を残すような除雪はできないのか。

答 雪を残すと、融雪期に道路がざくざくになるからと説明があるが、簡易舗装等の道路状況も含め行政に伝えながら研究したい。

問 道路除雪の概念とは何か。道路はきれいになるが、道路の雪を間口へ置いていく。間口の除雪には何時間もかかり、高齢者は名寄に住めなくなるのではないか。

答 道路除雪は緊急車両の通行もそうだが、一般的な生活がしやすいようにというのが原点と思う。間口に入る雪は、個人に処理をしてもらうことになるが、障がい者、高齢者には何らかの対策が必要である。予算や人的な問題もあるので、全戸ということにはならないが対策はしなければならない。経済建設常任委員会では他市の状況等も参考にしながら研究議論を進めている。

(名寄温泉サンピラーについて)

問 名寄温泉サンピラーの温浴施設の改修に2億円という報道があったが、その後の経過はどうなっているのか。

答 利用者アンケートや調査委託業者の調査結果では改修が必要ということであり、施設の規模は広げずに温浴施設の改修に2億円かかるという説明であった。総合計画(第2次)の実施計画にも上がっていたが、その後、経済建設常任委員会での説明では明確な将来設計を持って判断するというので、平成29年度予算についてはゼロ査定となった。6月定例会には一定の方向性が示されると思う。議会としても市民にしっかりと示すことのできる案を提示してもらう。実際に改修する場合は実施設計などするが、2億円という数字が独り歩きしている状況である。サンピラー温泉だけをどうするということではなく、スキー場、ロッジ、健康の森等日進地区全体をどうするのか、全体の構想を持って対応しなければならない。市民の関心も高い。議会報告会での意見として伝えたい。

(特別養護老人ホームについて)

問 清峰園、しらかばハイツについては介護職員の不足が伝えられているが、介護職員の補充はどの程度進んでいるのか。

答 介護人材確保緊急対策事業として、初任者研修等受講費用の助成をしている。介護職員の不足により、市内両施設1ユニットずつ閉鎖していたが、新採用職員等の補充ができ、清峰園、しらかばハイツの職員配置により、清峰園を満床とする計画であると説明を受けている。

(JR宗谷本線等の問題について)

問 宗谷本線活性化推進協議会の出口はこれからの議論だということだが、JRも存続させ、バイパスも発展させて、道路も鉄道もということにはならないのではないか。バスなどの交通網を充実させる、どのくらい便利にできるかなどを出口にし、見切りをつけることも必要ではないか。

答 JRの問題については、今後、推進協議会の幹事会で課題を整理するとのこと。今の段階ではバスに切り替えてという話はない。北海道全体の交通ネットワークのあり方を考えて進んでいくことになる。沿線でも利用促進の施策、助成、イベントなどを考えていかなければならない。ある程度時間が必要とも考えるが、私

たちの考えをどれだけJRにわかってもらうか。沿線の足並みをそろえ取り組んでいく。

(市立総合病院の窓下の苔について)

問 市立総合病院にお見舞いに行った際に、窓下を見ると屋上に苔が生えていた。防水等の加工を痛めるのではないか。管理のあり方は。入院患者等にはあまり気分の良いものではないと思われる。

答 市立総合病院に確認したところ防水には問題はない。苔については管理不十分ということではなく、夏の暑さ対策等になっている。

(市職員の駐車場について)

問 飲食店の経営者等は市街地に自分の駐車場も借上げており、経費が掛かっている。市職員は市の駐車場に無料で駐車しているが、除雪等の経費もかかるので経費を徴収したらよいのではないか。

答 意見があったことは行政に伝える。

(名寄市内の高校のあり方について)

問 名寄高校におよそ1クラス分の欠員が出たと報道があった。他市へ進学する生徒もいるだろうが、このままでは、高校の統合や地域から高校がなくなることも懸念される。このまちの高校教育をどうするかということを考えていかなければならないのではないか。

答 名寄市内高等学校あり方検討会議を設置し協議をしている。名寄産業高校では定員割れが続いており、危機感を持って生徒募集に動いている。例えば友好交流都市の杉並区の教育委員会に協力していただき、杉並区の中学校に酪農科学科のパンフレットを配布してもらった。反響があり何人かの生徒さんが杉並区から入学してくれている。名寄市では地域に貢献できる人材の輩出のため、在学中の資格取得に対する助成に取り組んでいる。名寄市にはどのような高校のあり方が必要なのか、進学校と職業校の2校を維持する方針でしっかりやらなければいけない。

A班 ふうれん地域交流センター会場 参加7人

(総合計画(第2次)について)

問 基幹道路の凸凹や舗装にも穴があり、周辺住宅では飛び石による玄関ガラスの破損など被害が出ている。まちづくり懇談会でも道路等インフラ整備計画について質問したが、総合計画(第2次)で議論し進めたいという回答であり、計画の中には見えてこない。町内会に対して問いかけも説明もない。議会として総合計画を議論した時には、どこまで議論しているのか。

答 議会基本条例では、総合計画の基本構想及び基本計画を議決事項としている。実施計画については、議員協議会で説明を受け、予算審査特別委員会などでチェックし審議している。

問 道路等の整備計画を市民に分かるように提示してほしい。特に東5号道路、25線道路は交通量も多く、農業の基幹道路ともいえる。凸凹で道路状態が悪い。総合計画に反映してほしい。

答 ご意見は議会としてもよくわかっている。道路等の改修計画については市民に分かるようにと行政側に意見を伝えたい。道路ばかりではなく、橋や公共施設についても長寿命化計画、再整備計画を進めている。公共施設等では人口減に合わせ平成32年度までに総延べ床面積で13%縮減する計画を進めている。統合、廃止などについては市民合意を得ながら時間をかけて進められる。

(議会報告会の開催時期について)

意見 今回の議会報告会は時期的なものもあり参加者が少ないのではないかと。風連地区では1カ所のみで開催であるので、市民が参加しやすい時期に開催してほしい。

意見 議会報告会の案内が遅い。5日前では町内会に回覧することもできない。早めに周知してほしい。

(参加者が少ない等同意見あり)

答 反省材料とし、次回開催に活かしたい。

(防災対策について)

問 名寄市には立派な防災計画があるが、北朝鮮ミサイル等の問題について、住民の生命に関わることであるが、対応できているのか。

答 昨年は台風での被害もあった。防災担当職員の配置や防災訓練の実施など、防災対策に対応している。北朝鮮関係のミサイルについては、防衛省との協議など単一の自治体での対応は困難かと思われるが、そのような意見があったということは心に留めなければならない。

(人口減少の対策について)

問 人口減少が日本全国で課題となっているが、名寄市の地域経済と投資効果について、風連中央小学校の改修や大学等教育投資が増えている。地域経済の活性化のための方策は。人口が減少すると病院もダメになる。人口を増やす目に見える施策で期待が持てるようにしてほしい。

答 都会への人口集中、地方の過疎化が進んでいる。国は、まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し施策を進めている。そのような制度によって、名寄市でも大学の振興や冬季スポーツの振興などで、交流人口を増やし何年にはこのような結果を残すというような目標を定め施策を進めている。地方にとっての人口減少は様々な分野に影響があり、地域医療を担う市立総合病院も今の状況での運営は難しくなる。働く場を作る、Uターン者を迎える、新規就農を促すなどの施策を進めているが、目に見えてこれがというものはないかもしれないが、行政も議会も意識しながら活動している。総合計画は10年後こういうまちになるようにと目に見える計画でなければならない。名寄市で子どもを産み子育てしたいなど人口を増やすというよりは減らさない施策に取り組んでいるが、なかなか目に見えるかたちにはなっていない。厳しいという認識は持っている。

(名寄市内の高校のあり方について)

問 名寄産業高校では生徒数が減っている状況にある。1間口 20 名を下回る状況が3年間続くと間口が減る。今年度は名寄高校でも大きな定員割れがあった。他の市町村でもいろいろな施策があり、そちらに引っ張られたことも考えられる。魅力ある高校づくりとあるが、どのようなことを考えているのか。

答 名寄産業高校では、友好交流都市の杉並区の教育委員会に協力してもらい、杉並区の中学校にパンフレットを配布し、興味持ってもらい入学者を迎えることができた。将来のバイアスロン選手を目指す強化選手も入学している。酪農科学科は全国から生徒を集めることができる学科。カリキュラムの中身は農産物の加工など農業後継者のみならず広く学習できる。地域に人材を輩出する高校として、資格を持って社会に出る支援として、資格取得にかかる経費の一部を支援している。高校卒業後の進路を考え、旭川市内の高校に進学する生徒もいるようだが、学校にも頑張ってもらい、生徒から選んでもらえる高校になってほしいと思う。

(会派構成の変更について)

問 会派構成の変更について説明があったが、議会運営が変わることはあるのか。

答 名寄市議会は会派制をとっているのですが、委員会の構成などに影響する場合もあるが、任期の途中であるので、最低限のところだけ委員の変更があった。議会運営委員会、議会改革調査特別委員会の委員について、市政クラブより委員を選出した。

(常任委員会の視察について)

問 常任委員会の視察については、今年度の除排雪支援の「レンタル&ゴー事業」など新事業に反映された部分もあり、今後も必要と考える。良いところを見て名寄市に反映させてほしい。

答 議員も先進事例を学び、行政に反映しようと活動している。今後も視察での調査研究を活かしていきたい。

B班 名寄市総合福祉センター会場 参加 12人

(議会報告会について)

問 初めて参加したが、資料は前もって配付してもらえないか、意見を出しやすくなる。参加者が少ないが、市民は関心がないのか。何か良い方法はないか。

答 多くの町内会から報告会の案内が遅いとの指摘をいただいた。昨年までは6月定例会終了後に年1回開催していたが、今年度より年2回開催として、3月定例会終了後4月に開催することとした。準備不足であった事をお詫び申し上げる。次回は10月に開催する予定だが、開催方法を工夫し、議論を深めるやり方等を検討していきたい。参加者が少ないことについては、毎回ご指摘をいただく。議会にとっても課題と考えている。市民のために何をしているのかをアピールし、しっかり活動していかなければならない。

問 議会報告会の参加者が少ないのは、議員と市民の関係が希薄なものになっているのではないかと。昨年開催された、経済建設常任委員会と町内会役員との除排雪に関する意見交換会は、テーマを絞って意見交換ができて良かったと思う。行政視察について、悪い事とは思わないが、視察後の市民報告が重要になるのではないかと。先進地の良い事例、名寄市にはマイナスの事例など議員の中でまとめて報告してはどうか。議会報告会というネーミングも参加者が少ない要因ではないかと。市民の意見を聞かせてくださいと、市民が集まりやすい、ひきつけられるネーミングにしてはどうか。

答 各常任委員会では、テーマを決めて調査研究を進めている。行政視察についても、テーマについての先進地を視察し成果としてまとめている。議会報告会では多くの市民の方に参加していただき、それぞれの意見を伺うことができる場にしたいたいと考えている。ネーミング、開催方法含め議会改革調査特別委員会で検討し、議論していきたい。

(議会活動について)

問 議会報告会への市民参加が少ないのは、議会報告に興味がないのか、市民が議会に興味がないのか。議会に魅力が欠けているのではないかと。議会が市に対する態度が甘いのではないかと。行政視察については、効果がなく意味がないのではないかと。視察の報告も議会だよりも少し掲載されるだけである。今回初めて議会報告会の資料に視察報告が掲載されている。行政視察の実績を市民にアピールすべきである。政務活動費について、大会派と一人会派の使い方がアンバランスと感じる。行政視察と政務活動費は減らしたほうが良いのではないかと。

答 行政視察の報告については、課題であると考えている。現在は、視察後に本会議で報告し、議会だよりも市民にお知らせしている。行政視察は先進地へ行って見るだけではなく、担当者や熱心に事業に取り組んでいる職員の話聞いてくることは名寄市にとってプラスになることである。アピール不足についてはそのとおりであり、議会改革調査特別委員会で取り組んでいきたい。政務活動費については、議員個人ではなく会派に支給している。実績報告書は領収書を添付し議長へ報告している。市民から疑念を持たれないように対応していかなければならない。

(総合計画について)

問 第一次総合計画について、期間 10 年間の達成度など議会がどのように関わって評価し、総合計画（第 2 次）にどのように反映されたのか。

答 総合計画については 3 常任委員会で点検をしながら進めてきた。総合計画（第 2 次）についても、議会の議決事項である基本構想と基本計画について 2 日間の集中審議を行った。基本計画、実施計画は 2 年・4 年・4 年の計画期間としており、市長選の市長公約に関わる問題についても、しっかり議論した。合併後の 10 年を振り返り、今後の 10 年を見据え議員が理解を深め、スキルアップしながら市民に応えられる議会をつくっていく。

問 総合計画（第2次）のダイジェスト版が配布されたが、これを見て名寄市がこの10年間でこのように変わっていくと見えてこない。ダイジェストということは分かるが、このことを特徴的にやっていくと目をとおした市民がわかる部分が欠落していると感じる。せっかく全戸配布しているのだから、10年間でこういうかたちになるという漠然としても感じるような周知の仕方を研究してほしい。計画期間についても、前期5年、後期5年から2年・4年・4年と市長の任期に合わせたとあるが、計画そのものは持続性、行政の継続性に重きを置いた議論が必要と考える。

答 総合計画（第2次）については、議会でも10年後の名寄市の姿が見えないという議論をしてきた。わかりやすく市民に伝えるということでダイジェスト版を作成した。計画期間についても、市長公約がどのように絡むかが見えてこない。10年後の姿をしっかりと見据え、それに向かって進めるということであった。議会でも進行を確認し、市民の皆さんに見せられるように進めていきたい。

（除排雪について）

意見 現役を引退し、除排雪問題について研究している。最初に興味を持った頃から見、人とトラックの数が3分の1くらいに減少している。除雪をやりたくてもできない時代になっている。1か月でできる除雪を2か月もかけて不経済である。研究を完成させ発表したい。雪堆積場も学校のグラウンドや公園を活用することで大きな効果が出せる。抽象的な話ではなく、これをやらなければダメだということを実証してほしい。その結果を踏まえ新しい案を進めてほしい。

答 研究した結果は議会にも報告願いたい。

（サンピラー温浴施設の改修について）

問 サンピラー温浴施設について、振興公社で運営しているが、大半は行政の持ち出しではないか。老朽化し、改修するということだが、思うように進んでいないと聞く。将来、この施設が改善される方向に向かっているのか。行政と議会の意見は一致しているのか。将来の構想含め議会はどのように考えているのか。

答 サンピラー温浴施設については、昨年秋くらいから緊急に改修したいというのが行政の意向であった。温浴施設、サウナ等にお金をかけて改修したいということであった。昨年末には改修という方向をだし、総合計画（第2次）実施計画にも改修費用2億円を盛り込んだ。その後の常任委員会の中で1年先送りしたいと報告が覆った。6月定例会には方向性が見えてくるのではないかと。公衆浴場については全市的にどこにあるべきかという検討も必要である。市民が期待している温浴施設に、今後の議論を活発なものにしたい。

（道路状況について）

問 雪解けの道路の陥没はひどい状況である。昼は凹凸が見えるが、夜は全く見えない。1条通りは特にひどい状況である。議会と行政の話し合いはどのようなになっているのか。

答 道路の関係については、それぞれの議員が市民から意見をいただいている。そ

のたびに建設水道部に報告し調査をしてもらっている。毎年同じような状況であり、抜本的な改修が必要かもしれないが、単費ではなかなかできない。市民生活に影響のあることであり、行政にも伝えていきたい。

(市庁舎の考え方について)

問 市役所の庁舎の関係について、合併後、10年以上過ぎたがまだ2分庁舎。一つの庁舎にまとめる考えはあるのか。風連庁舎と名寄庁舎行ったり来たりしなければならず、なるべく一か所だと思うっているが、考え方を聞かせてほしい

答 非常に難しい問題である。風連町と名寄市は対等合併であり、お互いの財産を有効に使うため分庁方式とした。合併時より人口も少なくなり、旧名寄市よりも少なくなっている。さらに分庁が良いのか議論が必要である。理事者の思いが現市長からは出てこない。非効率であり、危機管理の面から見ても疑問が出てくる。しっかりと議論していきたい。

(JR宗谷本線等の問題について)

問 新聞報道で宗谷本線活性化推進協議会についての記事が掲載されていたが、会長である加藤市長の発言として「落としどころが見えない」というような発言があった。短い文面で切り取られている部分もあると思うが、これから論点整理をし、それぞれの立場で存続に向けて議論を深めていくのが協議会、幹事会の役割と考える。協議会で名寄市は会長と事務局を担っている。発言は何を意図するのか。

答 議会としても存続の議決をしており、旭川市以北稚内市まで沿線自治体で一致して存続させたいという意向である。理事者側からは宗谷本線活性化推進協議会及び幹事会が開催されると報告を受けている。事務レベルの協議が始まり、論点をしっかり整理し議論を進め一定の方向を示したいとのことであった。議会としても結論を受けるのではなく経過を確認できる体制で取り組みたい。

B班 智恵文多目的研修センター—会場 参加 15人

(サンピラー温浴施設について)

問 まちづくり懇談会の中でサンピラー温浴施設について質問したが、検討するということだけで、改修されるわけでもないようだが、どのようになっているのか。

答 温浴施設は老朽化も進んでおり、総合計画（第2次）実施計画では改修費用に2億円が計上された。その後の経済建設常任委員会では1年間先送りになった。市民に対する説明も不足している。6月定例会には方向性が示されると思うが、市内でも意見が分かれている。市民が期待している温浴施設に、今後の議論を活発なものにしたい。

(市立図書館について)

問 大学図書館が開館された。今後は市立図書館の建替えについても議論されると思うが、大学図書館との整合性などについて考え方を説明してほしい。

答 大学図書館は今まで本館と恵陵館に分かれていた。名寄市立大学は専門職の大学であり各学科国家試験等の資格を取得する機会が多い。各学科4年制になり学生が800人を超えることから、今までの図書館では学習環境含め足りない状況であった。大学図書館という位置づけではあるが、市民の利用は可能である。市立図書館も老朽化が進んでいる。名寄市民の教育の場としての図書館のあり方を総務文教常任委員会として調査研究をしている。市内公共施設も老朽化している施設が多くあり、図書館単独の施設ではなく、複合化ということも検討している。市民の図書館としてのあり方を提言していきたい。

(町内会館補修費用について)

問 市役所で町内会館の補修費用について質問をしてきた。施設に係る補修費用に対する補助ということで、今回申請したストーブは補助できないといわれた。以前の申請を見ると、施設かどうか判断しにくいものについても補助があったようだが、はっきりとした方向性や基準が曖昧なのではないか。智恵文地区の町内会は来年度に向けて合併の動きが出ている。町内会館の維持管理についても、空家になった時の対応など、対策が必要である。

答 智恵文地区にある10町内会を一つの町内会へと進んでいる。それぞれの町内会館の維持管理等、地域として議論していかなければならない。行政とのつなぎ役として、地域の皆さんから情報をいただきながら、行政の協力が必要な部分については働きかけていきたい。課題を共有し、進んでいきたい。

(サンピラー温泉の経営について)

問 地産地消の問題については、以前から要望しているが、あまり進んでいるようには感じられない。サンピラー温泉ではカナダの輸入豚「三元豚」を主力として営業していた。名寄に一つしかない温泉ホテルであるのに、新聞広告や館内チラシなどで地元豚肉ではない外国からの輸入豚を宣伝しているのはおかしいのではないか。生産者も顔の見える人に消費してもらいたい。以前は、名寄の豚肉を使っていた時期もあった。地産地消について考えてもらいたい。

答 地元のを地元で消費すべきという意見をいただいている。議員も肝に銘じたい。経済建設常任委員会の中でも議論していくことになるかと思う。

(議会活動について)

問 若年層との意見交換とあるが、どのあたりの年代を想定しているのか。

答 議会改革調査特別委員会の議論では、18歳選挙権の問題もあり、名寄市には大学もあることから、大学生との意見交換をと協議された。政治に無関心といわれる世代に、どのように関心を持ってもらうかが、これから議会として取り組まなければならないこと。農業関係者などいろいろな産業の若い方たちとの意見交換をしていきたいという認識もあるので、どの層からも意見、提言をいただき意見交換していきたい。

問 若年層は議会だよりや市議会のホームページを見たりしないのではないか。情報を自分で取りに行く人は興味がある人だと思う。議会でもフェイスブックなど

SNSを使って情報発信をしていくとよいのではないか。SNSは一度登録すると勝手に情報が送られてくる。そこから興味を持つ人が現れるのではないか。

答 若年層とは、大学生、高校生も含むが、各関係団体の青年部とも話をしたいと考えている。ターゲットを決めて議会から出かけていくような取り組みも考えたい。意見を参考にしながら取り組んでいきたい。

(智恵文沼について)

問 智恵文沼の現状は、土砂の流入等により浅くなって環境が悪くなっている。沼の出口が浅くなり水の流れが悪くなっており、大雨災害の被害が大きくなっている。改善策としては土砂等を取り除き、流れを良くするという方法がある。過去には西側の砂利を取り除くことで、一時は水深2mと改善したが、時間も経過し再び環境の悪い状態となっている。北海道開発建設部、旭川土木現業所等関係機関との絡みもあるが、改善を検討してほしい。公園や観光面からの智恵文沼について、ヒブナが有名であるが、去年のヒブナ実態調査では生息を1匹も確認できなかった。ヒブナを釣る目的の釣り客も来ている。雷魚も多く生息している。昔は30cm以上のヒブナがいたが、智恵文沼保存会会長も心配している。観光の面と治水の面、大きな課題であると考え。このままではヒブナが消滅してしまう恐れもある。貴重な宝の保存に状況を把握していただき、市議会の皆さんにも認識をお願いしたい。

答 智恵文沼の保存について、報告会出席議員9名は共通認識を持った。治水の面からは床さらい含め、管轄の違いはあるが、しっかり進めていきたい。観光の面からも智恵文沼の存在意義を名寄市としてしっかり考えてもらう。全議員での共通認識としたい。

(道路等の状況について)

問 智東の東恵橋、7線南1号道路のU字溝の修繕と改修について、以前からお願いしているが、見通しはどのようになっているか。

答 道路については状況を確認する。東恵橋については橋梁の長寿命化計画で状況の確認はできている。いつ頃ということは申し上げられないが所管に確認する。

(会派構成の変更について)

問 会派構成の変更について説明があったが、市政クラブから離脱されたのは加藤市政に共感できなかったのか。本人の意見とは思いますが、市民のためにどう働くのか。

答 個人的なことではあるが、名寄市の人口規模では会派、党派にこだわらず、市民を第一に考えたいと思っていた。保守系であることや方向性も変わらない。一人会派になって参加できる会議も増えるのでさらに勉強していきたい。

問 議会は会派構成をし、お互いに学習しながら情報を集め議会活動をするのではないかと思うが、一人会派というのは、政党を背負うところ以外はどのような活動をするのか。

答 しばらくは議員の活動を見てほしい。議会基本条例では複数所属を会派とする。

便宜上一人会派として表現している。議会改革調査特別委員会でも協議していきたい。

B班 名寄市民文化センター会場

参加 16 人

(大学図書館について)

問 大学図書館の見学をしてきた。とても素晴らしいものができた。大学図書館と市立図書館の話が出たときは同時進行で出てきていた。市民の中には大学図書館と市立図書館を一緒に一つの図書館にしてはという意見もあったと思うが、図書館についてどのような意見が出ているのか。

答 大学図書館は4月にオープンした。今までは、本館と恵陵館に分かれた図書館を利用していたが、現在の名寄市立大学は各学科4年制で800人の学生がいる。学生が増えた現状で学生の学習の場が足りない状況にあった。名寄市立大学は専門職の大学であり、各学科国家試験等の資格取得のための学習環境を整える必要があった。大学図書館は市民も利用できるが、学生を中心とする大学の図書館。市立図書館も老朽化が進み、狭隘であることから将来について検討しなければならない。名寄市の財政で二つの図書館を建てるのは効率性の問題もあるが、教育宣言都市である名寄市の市民に役立つ、地域に役立つ図書館について議論を進めたい。

(他に同様の意見が1件あり)

(サンピラー温泉施設について)

問 交流のある外国人の方々に地元の温泉ホテルを紹介し宿泊してもらいたいと思うが、現状のサンピラー温泉ではためらってしまう。温泉ホテルはこの自治体にもある、特徴がないとお客さんは来ないのではないか。経営や集客力など改善する部分があるのではないか。会派や委員会の行政視察などで、そのようなことに力を入れている温泉ホテルを見てきてはどうか。

答 サンピラー温泉施設については市民の声を参考に良い方向性が出るように、議会としても財政的なものを考えながら、全市的に考えた議論を尽くしていきたい。

(大規模大会開催に係る選手等の宿泊について)

問 3月に開催されたJOCジュニアオリンピックスキー大会では名寄市外のホテルに宿泊していた参加選手が多かったと耳にした。名寄市内の宿泊施設を満室にして、足りなければ市外の宿泊施設を利用することにはならないのか。

答 大きな大会になると、旅行会社が各学校等参加者へ宿泊のあっせんをしている。特にスキーの大会は参加者によってはワックスルームが必要など、お客さんのニーズもある。大会を継続させることにより、反省点を次回に活かすことができると思う。JOCジュニアオリンピックスキー大会はある程度の経済効果があったと報告を受けている。名寄市に大会を誘致して、経済の活性化に結び付けるといふ取り組みは欠かすことができない。今後も批判を受けないよう応援をしていき

たい。

(各委員会の行政視察について)

問 議会の行政視察はよい事と思う。議会報告会には人が集まらないが、視察後はこのような報告会だけでなく、視察での調査研究事項に関係する市民、団体に向けて報告会をするとよいのではないか。議員が視察で得た知識を関係者に報告するとよいと思う。議員としてせっかく与えられたチャンスをぜひ市民に還元してほしい。そのような結果が出るならば、行政視察も政務活動費も有益なものになる。

答 貴重なご意見として受けとめさせてもらおう。関係団体、大学生、高校生とも意見交換が必要と考える。委員会の視察後に関係団体と意見交換することも一つの方法である。議会改革調査特別委員会の中で議論し、実現していきたい。

(特別養護老人ホームについて)

問 特別養護老人ホームの介護職員が少し増えたと聞いた。介護職員が不足している中で正職員として採用することは、入所者や家族にとっても安心できること。議員の活動があったからと思う。

答 地元紙や議会議論を通じて、二つの特別養護老人ホームの状況はお伝えしている。残念ながら両方の施設で入所者を満床まで受け入れることはできないが、職員の配置により、夏前にはどちらか一方の施設を満床にしたいと聞いている。資格の持った人に復職してもらおう、初任者には研修を受けてもらいスキルアップする。そのような支援も継続されるが、今後も行政も議会も努力していきたい。

